



平成26年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月12日

上場取引所 東名

上場会社名 CDS株式会社

コード番号 2169 URL <http://www.cds-japan.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 芝崎 晶紀

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経理・財務部長 (氏名) 中嶋 國雄

四半期報告書提出予定日 平成26年11月12日

TEL 052-587-5410

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第3四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第3四半期	5,729	△2.3	526	△17.2	530	△15.8	282	43.3
25年12月期第3四半期	5,863	△1.3	635	△21.2	630	△20.5	196	△57.7

(注) 包括利益 26年12月期第3四半期 283百万円 (34.3%) 25年12月期第3四半期 211百万円 (△54.7%)

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
26年12月期第3四半期	41.36	—	—	—
25年12月期第3四半期	29.35	—	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円	百万円	円	%	円	銭	
26年12月期第3四半期	5,459	—	3,857	—	70.6	565.51	—	
25年12月期	5,643	—	3,832	—	67.9	561.94	—	

(参考) 自己資本 26年12月期第3四半期 3,857百万円 25年12月期 3,832百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	銭	円	銭	円
25年12月期	—	16.00	—	20.00	36.00
26年12月期	—	18.00	—	—	—
26年12月期(予想)	—	—	—	18.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 平成25年12月期1株当たり配当金20円の内訳は、普通配当16円、記念配当4円であります。

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
通期	9,237	11.0	1,153	10.5	1,139	9.3	611	37.6	89.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年12月期3Q	6,924,400 株	25年12月期	6,924,400 株
② 期末自己株式数	26年12月期3Q	104,000 株	25年12月期	104,000 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年12月期3Q	6,820,400 株	25年12月期3Q	6,706,979 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済・金融政策による効果を下支えに企業収益や雇用情勢の改善が進んだほか、株価上昇、設備投資の持ち直しが見られましたが、一方で、消費税率の引き上げや急激な円安進行による物価上昇、夏場の天候不順などの影響により個人消費が伸び悩むなど、景気動向は依然として足取りが重く、力強さに欠ける状況が続いております。

当社グループは、情報家電産業、産業設備・工作機械産業、自動車産業、医療機器産業などに代表される「ものづくり企業」へのサービスに特化し、ドキュメンテーション事業、エンジニアリング事業、技術システム開発事業を展開しております。IT技術を駆使した「ストレート・スルー・プロセッシング」を可能とする「技術情報統合マネジメント企業」を目指しており、グループ各社の多種多様な特長と強みを活かすことで、グループ内シナジーを創出し、顧客企業の製品開発から製造・販売・サービスまでのビジネスプロセスの各段階をトータルにサポートしております。

また、高度化・多様化する顧客ニーズに対し、常に最新鋭の情報技術力を駆使するとともに、当社独自の特長ある技術力を提案することで、「ものづくり企業」へのサポート体制を強化してまいりました。今後も、“提案力の強化”“高付加価値技術による他社との差別化・競争力強化”に注力し、“既存顧客の囲い込み”“新規顧客の開拓”を進めるほか、ロボットビジネスの確立をはじめとする“新規事業・新規領域の拡大”“M&Aによる規模の拡大”を図ってまいります。

近年では、株式会社バイナスが手掛けるFA・ロボットシステムを中・長期的な戦略ビジネスとして位置づけ、業容拡大に注力しており、平成26年4月には新工場を開設し、操業を開始しております。今後も引き続き、ロボットエンジニアリングビジネスの確立に向けた業務展開を積極的に進めていく方針であります。

当第3四半期連結累計期間の業績は、主に技術システム開発事業において主力となるシステム開発で顧客からの発注遅れがあったこと、またドキュメンテーション事業で、顧客企業でスマートフォンの機種ごとの絞り込みによる開発機種の減少の影響を受けたことなどによって、連結売上高5,729百万円（前年同期比2.3%減）、営業利益526百万円（前年同期比17.2%減）、経常利益530百万円（前年同期比15.8%減）の減収減益となりましたが、四半期純利益につきましては、前期に「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」の分配金を特別損失に計上したこともあり、282百万円（前年同期比43.3%増）の増益となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。（各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含みます。）

(ドキュメンテーション事業)

ドキュメンテーション事業におきましては、多言語取扱説明書、組込み型マニュアルといった当社独自の強み・新技術を活かした新規顧客の開拓、タブレット端末のビューワ開発に注力したほか、グループ各社との連携強化による総合力を活用した規模の拡大とブランド力の向上、システム化を進めることでの利益率向上と大型案件の獲得に取り組んできましたが、顧客企業でのスマートフォンの機種ごとの絞り込みによる開発機種の減少などにより、売上高は2,730百万円（前年同期比1.2%減）、営業利益は643百万円（前年同期比1.5%減）となりました。

(エンジニアリング事業)

エンジニアリング事業におきましては、独自のロボット・FAシステムを軸とした株式会社バイナスの高収益化、既存顧客中心の技術者派遣による着実な収益確保と利益率向上、グループ各社との人材交流による技術系要員の育成とグループシナジーによる新製品開発・拡販に取り組んできたほか、今春より稼働しております新工場によるロボットエンジニアリングビジネスの本格展開に注力してきた結果、売上高は1,115百万円（前年同期比10.5%増）、営業利益は184百万円（前年同期比3.8%増）となりました。

(技術システム開発事業)

技術システム開発事業におきましては、コア技術を活かした新ビジネス・オリジナル商品の創生による業務拡大、顧客パートナーとの連携強化に取り組んできましたが、主力のシステム開発で顧客先からの発注遅れにより、売上高は2,020百万円（前年同期比4.9%減）、営業利益は120百万円（前年同期比36.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は5,459百万円であり、前連結会計年度末より184百万円減少しております。内訳としては、流動資産が359百万円減少の3,331百万円、固定資産が175百万円増加の2,127百万円であり、流動資産の変動の主な要因は、その他の流動資産で66百万円（繰延税金資産37百万円、前払費用14百万円等）の増加があった一方、受取手形及び売掛金・電子記録債権で446百万円の減少があったこと等であります。

また、固定資産の変動については、有形固定資産が201百万円増加した一方、のれんの償却等により「のれん」が37百万円減少したこと等であります。

なお、有形固定資産の増加の主な要因は、国内連結子会社である株式会社バイナスの新工場を建設したことによるものであります。

(負債)

負債は前連結会計年度末より208百万円減少し、1,602百万円となりました。内訳は、流動負債が167百万円減少の1,576百万円、固定負債が40百万円減少の26百万円であります。

流動負債の変動の主な要因は、未払法人税が58百万円、賞与引当金が128百万円の増加があった一方、支払手形及び買掛金が228百万円、短期借入金が96百万円減少したこと等であります。

また、固定負債の変動は、長期未払金が40百万円減少したことによります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は3,857百万円であり、前連結会計年度末より24百万円増加しております。要因としては、主に利益剰余金が22百万円増加したためであり、これは四半期純利益282百万円と配当金支払259百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年2月14日の「平成25年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	993,290	988,264
受取手形及び売掛金	2,085,418	1,630,706
電子記録債権	221,086	229,551
商品及び製品	38,503	28,345
仕掛品	134,202	169,645
原材料及び貯蔵品	14,382	14,837
その他	207,114	273,275
貸倒引当金	△2,700	△2,700
流動資産合計	3,691,297	3,331,926
固定資産		
有形固定資産	1,043,695	1,244,954
無形固定資産		
のれん	491,815	453,988
その他	161,450	152,994
無形固定資産合計	653,266	606,983
投資その他の資産		
その他	267,901	288,087
貸倒引当金	△12,250	△12,400
投資その他の資産合計	255,651	275,687
固定資産合計	1,952,613	2,127,625
資産合計	5,643,910	5,459,551
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	399,026	170,099
短期借入金	596,000	500,000
1年内返済予定の長期借入金	1,285	1,082
未払金	338,969	263,839
未払法人税等	39,544	98,440
賞与引当金	125,338	254,080
受注損失引当金	7,404	13,961
その他	236,632	274,791
流動負債合計	1,744,199	1,576,295
固定負債		
長期借入金	2,730	1,794
長期未払金	40,763	—
退職給付引当金	21,039	22,202
資産除去債務	2,454	2,206
固定負債合計	66,988	26,203
負債合計	1,811,187	1,602,499

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	940,327	940,327
資本剰余金	1,171,768	1,171,768
利益剰余金	1,714,608	1,737,530
自己株式	△25,436	△25,436
株主資本合計	3,801,267	3,824,190
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,358	10,158
為替換算調整勘定	28,096	22,702
その他の包括利益累計額合計	31,454	32,861
純資産合計	3,832,722	3,857,051
負債純資産合計	5,643,910	5,459,551

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	5,863,011	5,729,811
売上原価	3,967,134	3,889,053
売上総利益	1,895,877	1,840,757
販売費及び一般管理費	1,260,092	1,314,536
営業利益	635,785	526,221
営業外収益		
受取利息	335	361
受取配当金	330	4,046
助成金収入	—	3,815
その他営業外収益	1,947	4,896
営業外収益合計	2,613	13,118
営業外費用		
支払利息	2,071	2,831
支払融資手数料	3,361	4,161
支払手数料	1,790	110
為替差損	793	1,195
その他営業外費用	91	161
営業外費用合計	8,108	8,460
経常利益	630,289	530,880
特別利益		
固定資産売却益	—	231
特別利益合計	—	231
特別損失		
固定資産除却損	456	6,019
従持信託分配金	274,088	—
その他特別損失	—	226
特別損失合計	274,544	6,245
税金等調整前四半期純利益	355,745	524,866
法人税、住民税及び事業税	187,229	266,154
法人税等調整額	△28,400	△23,385
法人税等合計	158,828	242,769
少数株主損益調整前四半期純利益	196,916	282,097
四半期純利益	196,916	282,097

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	196,916	282,097
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,229	6,800
為替換算調整勘定	11,989	△5,393
その他の包括利益合計	14,218	1,406
四半期包括利益	211,134	283,504
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	211,134	283,504
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ドキュメン テーション 事業	エンジニア リング事業	技術システ ム開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,755,271	1,006,984	2,100,756	5,863,011	—	5,863,011
セグメント間の内部売上高又は振替高	7,575	2,563	24,570	34,708	(34,708)	—
計	2,762,846	1,009,547	2,125,326	5,897,720	(34,708)	5,863,011
セグメント利益	653,096	177,534	189,920	1,020,551	(384,766)	635,785

(注) 1. セグメント利益調整額△384,766千円には、セグメント間取引消去6,314千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△391,081千円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間より、SAS METAFORM LANGUESが連結の範囲に加わっており、報告セグメントでは「ドキュメンテーション事業」に含めております。SAS METAFORM LANGUESの株式取得により発生したのれんの額は18,830千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ドキュメン テーション 事業	エンジニア リング事業	技術システ ム開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,723,684	1,114,632	1,891,495	5,729,811	—	5,729,811
セグメント間の内部売上高又は振替高	6,622	704	128,885	136,212	(136,212)	—
計	2,730,306	1,115,337	2,020,380	5,866,024	(136,212)	5,729,811
セグメント利益	643,018	184,296	120,540	947,855	(421,633)	526,221

(注) 1. セグメント利益調整額△421,633千円には、セグメント間取引消去4,957千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△426,591千円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。